

人権だより (令和7年度12月号)

川之石高校人権委員会 担当 2年次2組

～人権委員会 活動内容報告～

12月5日の全校朝礼で、人権委員会のこれまでの活動を報告し、参加した研修会で学んできたことや、人権課題についてお伝えしました。今回は、委員会発表の際の様子の一部を掲載したいと思います。



◎人権だより年間10回以上発行

人権委員会では、毎年10回以上の人権だよりの発行を目指しています。人権・同和教育ホームルーム活動の様子や講演会の内容を掲載しています。3学期も人権だよりを発行し、みなさんに人権問題について考えていただけるようにしていきたいと思っています。

◎人権標語 グランプリ発表

人権委員が標語を考えた標語の中から委員会の中で投票を行い、以下の3点が選出されました。

- ★「1つ1つのその違いが 世界にもっと彩をつける」
- ★「その行動で 未来の一步が変化する」
- ★「思いやり いじめをなくす 第一歩」

人間は一人一人違い、個性があります。違う人が多く集まりそれぞれの良さが混ざり合うことで社会は構成されています。自分は自分でいいということを感じさせてくれる標語ですね。また、いじめや差別をなくすための第一歩は自ら行動することです。ホームルーム活動で学んだ知識を生かし、差別は間違っていると強く思い行動できるようになれば、差別のない世界になります。相手のことを思いやる気持ちがあれば、言葉や行動は必ず変わってきます。人権標語は、南教棟1階の、人権・同和教育課の掲示板にも掲載しています。ぜひ、毎朝見てください。

◎障がいのある人の人権問題について考える

12月3日は「国際障害者デー」といいます。国際障害者デーは、障がいのある人の権利を尊重し、生活向上に向けた取組を促進することを目的とし、1992年（平成4年）11月に第47回国連総会で制定されたものです。これにより各国が、障がいのある人の人権を守るために制度を整えたり、住みやすい街づくりに取り組んだりする等、障がいのある人が自分らしく生きていくことができるように環境を整えられています。現在、日本でも障がいのある人の人権を守ることができるような法律や、公共施設でのバリアフリー化が進んでいます。日本では、12月3日～9日までの一週間を「障害者週間」とし、障がいのある人に対する理解を深め共生社会の実現を目指す啓発期間としています。

◆障害者差別解消法

障がいのある人の権利を守る1つの法律です。2013年に制定されました。障がいのある人の職業の安定を図ることや、障がいの有無に関わらず、それぞれの希望や能力に応じて、各地域で自立した生活を送れる共生社会の実現を目的としています。障がいがあるからといって不当な扱いを受けないようにするための法律です。2024年4月1日に障害者差別解消法は一部改正されました。障がいのある人にとって社会的障壁（障がいのある人が生活するうえで困るような物理的側面や制度的側面など）を除去していくことや、適切な合理的配慮を行うことで、共生社会を目指していく必要があることなどが示されています。



◇人権委員が考えた、障がい者差別をなくすために取り組んでいきたいこと

- ・「何かができない人」という見方で見るのではなく、「個人」として尊重したい。
- ・障がいの有無にかかわらず、一人一人が尊重され、排除されることなく、包み込まれる共生社会にしていきたい。
- ・自分のどこかに今一度障害に対する「偏見」がないか見直す。
- ・障がいがあるからといって特別扱いするのではなく、障がい者の方がどのようなことに困っているのか、どのような支援が必要なのかを聞いて支えていくことが大切。

「障がい者の人権問題」は、川之石高校生が特に知識を深めたいと思っている人権課題の1つとして挙げられているものです。今回は、障がい者週間ということで、障がい者の人権問題について発表でも取り上げました。この発表をきっかけに皆さんも障がい者の人権問題について考えてみてください。これからも、人権だよりで様々な人権問題について取り上げていきたいと考えています。まだまだ、人権問題は多くあります。私たち一人一人が自分らしい生活を送ることができるようになるためには、差別やいじめをなくしていくことが必要です。今後も人権委員会を中心に人権意識を高めることができるようにしていきたいと思えます。

～心の輪を広げる体験作文最優秀賞受賞～

12月5日に行われた第44回障がい者福祉推進愛媛県大会にて、本校福祉サービス系列2年次の山川蛍さんが「心の輪を広げる体験作文」にて最優秀賞を受賞して表彰されました。介護実習に行った際の、障がい者の方との関わりについて書かれています。体験作文の一部に、「障がいがあったとしても、私たちと同じように一人一人に得意なことや好きなことがある。障がいがあるから助けなければならないということではなく、まずはその人を一人の人間として知ろうとすることが大切なのだ」とあります。まずはその人を一人の人間として理解し、尊重する姿勢が大切だということが伝わります。最優秀賞受賞、本当におめでとうございます。

